

令和 4 年度 県立下館第二高等学校自己評価表

目指す学校像	スローガン『My New Story ～自らが創り出す未来～』のもと、地域に貢献できる確かな人間力を備え、実際に地域に貢献し地域を牽引できる「人財」を育成する。					
昨年度の成果と課題		重 点 項 目	重 点 目 標		達成状況	
成果 進路指導においては、茨城大学、埼玉大学など国公立大学に3名、法政大学、獨協大学など私立大学に延べ199名が合格を果たした。また、県立中央看護専門学校、県立つくば看護専門学校など、医療系専門学校に11名が進学をした。その他、短期大学や専門学校を含めると95%が進学をしている。また、就職希望者においても、筑西市役所、筑西消防署などの公務員をはじめ、製造、販売など一般企業への就職をすることができた。コロナ禍の中であったが、オンラインを活用した進路講演会やガイダンス、感染予防をしながらの課外授業や模擬試験などを実施した。そして、個別面談などによる個々への対応が、各生徒の適正に沿った進路実現につながったと見られる。また、挨拶の励行や服装に関する指導など、生徒指導面での細かな指導が、落ち着いた学校生活の充実に結びついた。さらに、学校行事においても、生徒の自主性を促すような取組みを行い、学校生活の充実に図ることができた。		・学習意欲の高揚と学力の向上	①積極的なICTの活用を含めた授業を推進し、主体的に対話的で深い学びの実現に向けた授業改善により学力の向上に取り組む。 ②「総合的な探究の時間」を充実させ、教科横断的な学習を通して、地域に貢献できる人財育成を図る。 ③公開授業・相互授業参観を推進し授業研究に努め、教員の資質向上を図る。 ④生徒の実態に応じた選択授業（習熟度別授業等）などを行い、教科指導の工夫・改善・充実を図る。		B	
		・生徒指導の総合的推進と「心の教育」の充実	①挨拶や清掃を励行し、生徒一人一人と向き合った指導を行う。 ②遅刻や欠席について対前年比10%減を目指し、正しい服装の励行や基本的な生活習慣の確立を図る。 ③交通安全教育を推進し、入院を伴う重大な交通事故0を目指す。 ④生徒・保護者とともに、校則の見直しを推進する。		C	
		・キャリア教育・進路指導の充実	①キャリアパスポート等の活用により、キャリア教育を充実し、社会に貢献できる高度な人材育成を目指して大学進学を推進する。 ②3年間を見据えた計画的な進路行事を実施することを通して、望ましい職業観・勤労観を育成する。 ③進路情報発信に努め、生徒のライフキャリア全体を見通した適切な進路実現を図る。		A	
		・環境教育の充実と特別活動の活性化	①学校行事や清掃美化および緑化活動を通じて奉仕の心や環境保全の意識を高める。 ②生徒会活動や部活動を通して、社会性やコミュニケーション力を高める。 ③筑西市と連携を深め、地域貢献活動を行いながら豊かな情操を養い、明るく活力ある学校づくりを推進する。 ④部活動加入率70%以上を維持することを目標とする。		B	
課題 探究を軸とした学びのスタイル改革への取組みが課題である。課題解決型学習や教科横断的な指導、キャリア教育と連携した指導、GIGAスクール構想による効果的にICTを活用した授業づくりを図りたい。また、「総合的な探究の時間」を通し、地域と連携した探究活動を充実させ、主体的に課題を見つけ出し解決していく姿勢を養うとともに、地域に貢献できる人財育成を図る。 生徒指導においては、引き続き挨拶の励行や服装指導に取り組むと同時に、「心の教育」や「生きる力」の充実を図り、生徒の人的成長を促していく。		・「道徳」教育の充実と「生きる力」の育成	①自己の尊厳を深く自覚するとともに、善悪を正しく判断し、自分の行動に責任を持てるよう「道徳」教育の充実を図る。 ②“下館二高3Aプラン（Assess、Act、Achieve）自分を見つめ、行動を起こし、夢を達成する”の推進体制を整備し、進路について考察する学習活動を充実することにより、自己理解を深め「生きる力」の育成を目指す。		C	
		・学校安全計画の策定と学校安全の意識の向上	①関連する教科・校務部・部活動等を含む学校安全計画の共通理解を図ることにより、安心安全な体制づくりをする。 ②学校安全委員会を年2回開催し、学校安全の状況をチェックしその改善を図る。		C	
		・働き方改革の推進	①学校行事の精選、効率的な運営を図る。 ②ICTを活用して、業務の効率化を図る。 ③部活動運営方針を遵守するとともに、部活動数・顧問数など運営の見直しを図る。		A	
三つの方針		具体的目標			評価	次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	スローガン『My New Story ～自らが創り出す未来～』のもと、地域に貢献できる確かな人間力を備え、積極的に地域を牽引できる「人財」を育成する。			B	授業での学習や行事等で、更に生徒主体の活動を促す。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○目標の連鎖に留意して学習活動、特別活動、道徳教育、人権教育等を行うことにより、心身ともに健康で情操豊かな、地域に貢献できる人材を育成する。 ○新学習指導要領の着実な実施を通じて、確かな学力を身につけ、社会の変化に対応して、他者と協働して課題解決にあたることのできる資質・能力を育成する。 ○「総合的な探究の時間」を活用し、地域と連携した探求型学習の充実を図る。			A	・知情意のバランスを留意しながら、人財を育てる。 ・正解のない課題に、協働して取り組ませる。 ・「探究」に関しては、1年時から計画的に実施する。
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○積極的に学習活動に取り組み、より高い学力を身につけたいと考えている生徒 ○地域の課題に興味・関心を持ち、地域社会との協働に意欲のある生徒 ○生徒会活動、部活動、ボランティア活動等に主体的に取り組む生徒			B	中学時からの基礎学力を定着させ、より高度な学習内容に取り組ませる。

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	国語	学力の向上を図る。	生徒の実態と進路希望に対応した授業内容を展開し、希望者には課外授業を実施する。	A	A	・効果的なICT機器の活用方法について教科内で共有を図る。 ・新教育課程における評価基準について、随時検討する機会を設け、評価に反映させる。
			生徒が主体的に学びを深められるようにアクティブラーニングの授業を展開する。	B		
			小テストを利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒へは補習を実施する。	A		
		自学・自習の習慣を身につけさせる。	週末や休業中に課題を出し、適宜点検し、自学・自習の習慣を身につけさせる。	B	B	
	地歴・公民	生徒の進路希望に応じた学力の向上に努める。	定期考査による生徒の学習状況確認、小テストや確認テストを行い、学習到達度を把握し、今後の指導に生かす。	B	B	・新課程に対応した授業づくりや教材研究の充実をはかる。 ・観点別評価について、研修に参加や情報の交換・共有をはかる。
			生徒の進路希望に対応した授業内容を展開し、大学進学希望者には課外等を実施する。	B		
			生徒の進路実現のための各種模擬試験等に対しては、試験対策・解説授業を展開する。	B		
		広い知識と理解力の向上のために、授業の改善に努める。	教科会を定期的に開き、授業実態の把握と指導方法や授業内容の改善に努める。	B	B	
			高校教育研究会等の各種研修会に参加し、情報の共有や自己研鑽に努める。	B		
			必要に応じて外部講師等を招き、知識の有用性を認識させるため体験的な学習を展開する。	B		
	数学	視聴覚教材やICTを活用して、学力の向上を図る。	生徒のレベルに合った視聴覚教材やICTを活用して、授業展開をし、理解力を上げる。	B	B	・効果的なICT機器活用の授業を共有し、学力向上を目指す。 ・有効な学習法を示し、自学自習の意欲を喚起する。 ・新教育課程に応じた学習評価基準を共有し、再考しつつ、より確実な評価にする。
			課外授業を通して、学力の向上を図る。	B		
			朝学習や小テストを定期的に行い、基礎力の定着を図る。	A		
		家庭学習の定着に努める。	定期的に課題を与え、家庭学習の定着を図る。	A	A	
	理科	生徒の進路希望に応じた基礎学力の向上を図る。	生徒の進路希望に応じた授業内容を展開し、大学等進学希望者には課外等を実施する。	A	A	化学物質の管理に不十分な点が認められる。管理簿等を整備するとともに、保管状況を職員間で共有して、管理運用をすることとした。
			休業中には課題等を与えて、学習習慣の定着を図る。	A		
			実験を適宜実施し、興味・関心を高め、協力しながら学びあうような授業の展開を図る。	B		
		視聴覚教材やICTを活用し、興味・関心の高揚を図る。	実験観察動画等の視聴覚教材、またはICTを利用した授業を展開し、生徒の学習意欲を高揚させる。	A	A	
	保健体育	各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	生徒の興味・関心の持てる種目を取り入れ、運動に親しむ態度を身につける。	A	A	2、3年生の選択授業において自分に合った練習を取り入れられるように指導する。 また、さらなる観点別評価の充実に努める。
			各種目の練習の仕方、ルールや審判の仕方の理解度を確認する。	A		
			学習評価について観点別評価を充実させ、生徒に分かりやすい評価に努める。	A		
			実技において、自分に合った練習によって技能や記録の向上を図る。	B		
	芸術	個別指導を充実させ、個性的・創造的な表現の能力を伸ばす。	生徒の実態に応じた授業選択を取り入れる。	B	B	・ICTを活用しながら、生徒の芸術への興味・関心を高めた。相互鑑賞を取り入れ、鑑賞力の向上を図った。 ・観点別評価に関しては研修に参加などして情報を得ていきたい。
			課題制作や実技テストを通じて、生徒一人一人の能力や到達度を把握する。	B		
			評価においては、観点別に評価する。	B		
		伝統文化への理解を深め、鑑賞能力を育成する。	作品発表を通して、互いに鑑賞し合う場を提供する。 視聴覚教材等を活用し、名作を鑑賞する機会を取り入れる。	A B	A	
	英語	一人一人の能力を把握し、個に応じた学習指導を充実させ、英語の基礎学力の向上を目指す。	ICT機器を活用し、効率的かつ魅力的な授業になるよう工夫し、生徒の学習意欲を喚起する。	B	A	・有効なICT機器の活用方法を共有する。 ・効果的な授業案や、活動案を学ぶ機会を設ける。 ・新教育課程に応じた学習評価基準を再考する。
			週末課題等を与えて、学習習慣の定着を図る。	A		
小テストを通して、学習理解度を確認する。			A			
リーディングマラソン等で洋書を読む機会を奨励し、主体的に英語を学ぶ姿勢を養う。			B			
英語検定やGTECなど資格取得を奨励する。			A			
課外授業、土曜講座等を実施して学力向上を図る。			A			
自学自習の習慣を身につけさせる。		課題やテスト等の到達目標ラインを生徒に示すなどして、自学自習の習慣を身につけさせる。	A	A		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	家庭	家族や生活の営みを人の一生との関わりの中で捉え、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てることを目指す。	個々の生徒の実態把握に努め、興味・関心を高める授業展開を図る。	B	A	・ICTの活用を通して学習の定着を図る。 ・評価基準を見直す。
			作業や実習を取り入れ学習効果を高めるとともに、ホームプロジェクトで実践的な能力や態度を身につけさせる。	A		
			実習やグループ学習を通じて、男女が協力して創造する態度を育み、キャリア発達を図る。	A		
	情報	コンピュータ操作に慣れ、情報の基本的表現処理能力の向上を図る。	ワープロ・表計算ソフトを用いて、簡単な文書作成・データ集計ができるよう知識や技術の向上を図る。	A	A	新学習指導要領及びカリキュラムへの対応が課題。
			課題提出を定期的に行うことにより、生徒の理解度を確認する。	A		
			学習評価に於いては、観点別に評価する。	B		
教務	学校行事・日課の適切な運営を行い、授業時間の確保に努める。	各校務分掌、学年などと連携し、効率的な学校行事の運営に努め、授業時間確保に努める。	A	A	・効率的な年間行事の運用に努める。 ・新教育課程及び学習評価の運用について、引き続き上布提供に努め、状況を注視していく。 ・諸帳簿等の整備については時期を見て実施する。	
		授業交換簿を適切に管理し、授業交換が適切に行えるよう情報提供に努める。	A			
		スクールガイドの配付や学校説明会を通して、情報発信に努める。	A			
	新教育課程の適切な運用、および各教科の学力向上を図る。	新教育課程の適切な運用を見極め、次年度以降の科目選択に関わる情報提供などに努める。	B	B		
		相互授業参観など工夫した授業展開の研修の機会を設け、生徒の学力向上を図る。	A			
		諸帳簿・諸用紙の整備と保存、記録の正確化を期す。	教職員が使用しやすいよう定期的に諸帳簿等を整備し、適切に管理することにより、業務の効率化を図る。			B
情報管理	校内LANの適正な運営を行う。	校内LANの運用方法やセキュリティの強化に努め、様々な情報の適正利用を推進する。	A	A	サーバの更新、全職員の貸与PC、タブレットの設定変更、新規アプリのアプリの導入作業を完了。今後は外部からのサポートが必要である。	
		校務支援システムの運用を推進し、正確な成績処理や個人情報の整理に努める。	A			
	情報機器を利用した学校業務の効率化を推進し、生徒の適正使用を支援する。	生徒の情報機器利用について、有効的で安全な活用が出来るように支援する。	A	A		
		ホームページを適切に管理・運営し、学校内外に対して様々な情報を提供する。	B			
		学校業務の効率化を図るため、関連する備品等の適切な管理に努める。	A			
特別活動	学校行事・部活動を通して望ましい人間関係を形成し、連帯感のある豊かで充実した学校生活を送る。	球技会・体育祭について生徒主体の企画運営を行う。	A	A	生徒会主催の学校行事について見直しを検討する。また、部活動について、生徒の自主的・自発的な活動を引き出せるような体制づくりを構築する。	
		各学校行事の意義を理解させ、全員参加を目指した指導を徹底する。	A			
		学校行事を通して、クラスの連帯感を強め、生徒の協調性を養う。	B			
	特別活動を通して、自主性・協調性を養い、協力して諸問題を解決しようとする実践的態度の育成を図る。また「キャリアサポート」を活用し、活動の蓄積を行う。	学校行事の充実と向上を図る生徒会活動は、生徒主体による企画運営を行う。	A	A		
		生徒が部活動に積極的に参加できる環境を作り、部活動加入率80%以上を目指す。	B			
		生徒の自主的・自発的な活動が促進できるよう顧問が適切な援助指導を行う。	A			
		目標を持ち、最後まで努力することで、成就感や達成感を体験させる。また、その活動を「キャリアサポート」に記録させる	B			
生徒指導	基本的な生活習慣の確立、挨拶の励行に努める。	朝の登校指導において、挨拶の励行・きちんとした制服の着用を促し、より良い習慣を身につけさせる。	B	B	・一部に基本的な生活行動が不十分な生徒が見受けられる。自ら判断し、適切な行動がとれるよう指導していきたい。 ・自転車の乗り方等、交通マナーを徹底していきたい。	
		職員による校内外巡視指導を実施し、問題行動の未然防止に努める。	C			
		全校集会・学年集会・HR等でモラル教育を徹底し、規範意識の確立を図る。また、服装・頭髪の正常化を目指し、段階的な指導を行う。	B			
		貴重品の管理及び教室や自転車の施錠を徹底し、盗難防止に努める。	B			
		チャイムによる始業や授業開始の徹底をはかり、時間を守る意識を確立する。	A			
		交通安全教育の推進と事故防止に努める。	C			B
	交通安全講話やバイク実技講習会を実施し、交通規則の遵守と命の大切さを呼びかける。	B				
	家庭や地域・関係諸機関・団体と連携を密にして、健全な高校生の育成を図る。	地元教育委員会や警察と連携し市内の巡回指導を計画的に行い、問題行動の未然防止を図る。	C	C		
		家庭・地域社会・関係機関と連携し、生徒自ら校則や社会のルールを守り、公共マナーを身につけるための活動をする。	C			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題							
進路指導	生徒が自らが在り方・生き方を考え、主体的な進路選択ができるように支援する。	各年次で進路講演会を実施。1年次は夢ナビライブに参加、大学模擬授業を実施。2年次は大学見学会を実施する。	A	B	・大学見学会の教育機関の選定について、十分吟味する。 ・進路だよりの内容をより充実させる。 ・1・2学年にも進路閲覧室の案内をして利用を促す。 ・3年生を囲む会は3月実施予定。 ・進路便りは3月に1回発行予定。							
		本校卒業生の受験報告会を実施する。	B									
		医療系出張講座を実施する。	A									
		2年次でインターンシップ(教育・保育系・公務員など)を可能な限り実施する。	A									
		ブライトホールの利用を促し、自学自習の習慣の確立を目指す。	C									
	多様な生徒の実態に対応できるキャリア教育指導体制の確立を図る。	進学希望者に対して多様な課外講座を開設し、内容の充実と参加率の増大を目指す。	B	A								
		公務員・就職希望者に対して、指導を早期に行い、意識の高揚と進路実現に努める。	A									
	進路情報を充実させる。	「進路の手引き」を発行し、進路情報を積極的に提供する。	A	A								
		「進路だより」を年3回程度発行する。	B									
		進路指導閲覧室の利用促進を図る。	A									
前年度入試結果の情報を活用する。		A										
保健厚生	心身の健康を自己管理できる能力の育成	健康の保持増進に関する情報を発信し、健康に対する意識の高揚を図る。 各学年との連絡を密にし、生徒の健康状況を把握することにより、適切な保健指導を行う。	A A	A	・学年やカウンセラー、学校薬剤師等の関係機関と連携を図り、安心・安全な環境を確保したい。 ・委員会活動をとおり、生徒の安全や美化意識の高揚を図りたい。							
	清潔な教育環境の確保と安全確保に努める	安全・美化点検を定期的に実施し、危険箇所・設備の状況確認を行う等、環境整備や環境美化に努める。 新型コロナウイルス感染症予防のための環境整備に努める。 教室内の空気・照度検査、飲料水の水質検査を定期的に実施する。 各委員会活動をとおり、校舎内外の環境美化に努めるとともに、美化意識の高揚を図る。 防災避難訓練をとおり、防火・防災の意識を高めるとともに、危険回避能力を身につけさせる。	B B A A B									
		自主学習を支援するために、図書の充実を図る。また、明るく開放的な図書館を目指し、利用の促進を図る。 生きる力を身につけるための支援として、読書の推進を図る。	資料の廃棄及び更新を適切に行い、利用しやすい環境を整える。 生徒や職員のニーズに対応できる資料の収集に努め、学習活動や進路実現を支援する。 GIGAスクールを念頭に、広く確かな学びができるよう資料の拡充に努める。 生徒・職員の希望図書を購入し、「新着図書案内」を発行する。 「図書館だより」を発行し、図書館行事や教員・生徒の読書体験を紹介する。 図書委員会主催の読書会を開催し、様々な読みを知ることによる読書体験の深化を促す。	A A B B A A		A	・図書委員のより主体的な活動。 ・学年・教科との連携。 ・学習活動における資料収集法(ネット検索の仕方・データベースの紹介等)についての情報発信。					
			P T A総会など各種行事への保護者の参加率を高め、家庭との連携を密にする。	家庭と学校が連携を図り、生徒一人一人の健全な育成を図る。 P T A総会、各支部会活動を通して各支部の機能が十分発揮できるようにする。 学校の教育活動を積極的に広報するため、P T A便りを年2回発行する。 P T A活動の活性化のため、会員相互の親睦と研修の機会を設定する。				A B A B	B A			
				第1学年		基本的生活習慣と規範意識を確立させる。		遅刻・欠席・早退の減少を図るとともに、自己管理意識の育成を図る。 服装・頭髪指導の徹底を図り、高校生らしい身だしなみを身につけさせる。 挨拶の励行やルールの遵守等、規範意識の高揚を図る。		B B C	B	・コロナ禍において、新しい生活様式で感染するリスクを抑えるよう、注意喚起や巡回指導を行った。 ・基礎学力に注視し、進路実現に向けて計画的に学習できるように、課外や朝学習、スタディサプリ運動課題などを実践した。
								進路実現のための主体性を高め、学習習慣を確立させる。	授業を大切にし、予習・復習等の家庭学習習慣の定着を図る。 LHRや進路行事を有効に活用し、自己目標の設定等、キャリア意識の高揚を図る。 定期考査・模擬試験等の分析を行い、学年の状態を客観的に把握する。	C B C		
	学校行事や部活動へ積極的に参加させる。								部活動の加入を促し、充実した高校生活を送れるようにする。 学校行事等に積極的に参加させ、様々な体験をさせる。	B B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
第2学年	基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚を図る。	家庭との連携を密にし、欠席・遅刻・早退の減少を図る。	A	A	中だるみと言われる学年だが、全体的に落ち着いており生活態度は良好である。受験生としての意識が少しずつではあるが定着しつつある。中堅学年として部活動や生徒会、行事等において学校をささえることができて
		服装・頭髪指導の徹底を図る。	A		
		挨拶の励行やルールの遵守等、規範意識の高揚を図る。	A		
	基礎学力の向上や学習習慣の定着および、進路目標の明確化を図る。	予習・復習等の家庭学習を習慣化させ、基礎学力の定着を図る。	B	B	
		LHRや進路行事の有効活用および個別面談を通して、進路目標の明確化を図る。	A		
		定期考査・模擬試験の学習目標を立て、自主的・計画的に取り組む姿勢を養う。	B		
	特別活動などに積極的に参加させ、自ら考え行動する姿勢を養う。	部活動・委員会活動などの参加を促し、中堅学年としての自覚を持たせる。	A	A	
学校行事等に積極的に参加させ、様々な体験をさせる。		A			
第3学年	希望進路の実現に向けた意識を高めるとともに、進路指導の充実を図る。	多様な進路希望や入試方法等を把握し、個に応じた細やかな指導を行う。	A	A	生徒の希望進路に対して、教科や面接、小論文指導を個に応じて行うことができた。また、学校生活においても規範意識を持たせて、皆で気持ちよく生活できる環境を概ね作ることができたと考える。
		学年・進路指導部・保護者との連携を密にし、計画的かつ組織的に指導する。	A		
		目標設定や学力向上等、生徒の主体的な取り組みを促し、早めの準備をさせる。	B		
	最上級生としての模範となる行動および特別活動への積極的な参加を促し、高校生活の充実を図る。	基本的生活習慣の確立・校則遵守等、規範意識の高揚を図る。	B	A	
		部活動・学校行事等での積極的な活動を促す。	A		
		学校生活全体を通して、より良い人間関係の構築を図る。	A		
	規範意識の確立を図るとともに、社会人としての資質を育む。	社会のルール・マナーを守る態度を育む。	A	A	
		様々な活動に主体的に取り組ませ、自己の言動に対する責任を自覚させる。	B		

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない